

最新事情

人との関わり方を身に付け、自ら行動できる
人間力の豊かな生徒を育てる

兵庫県立姫路商業高等学校

(兵庫県姫路市)

明治44年に設立された姫路市立姫路商業学校を前身とし、改称や移転、合併などを繰り返して、平成22年には創立100周年を迎えた兵庫県立姫路商業高等学校。長い歴史の中で、同校では、地元を中心に社会で活躍する卒業生を大勢輩出し、次代へとつながる「人間教育」を行ってきた。対人関係能力を中心に、実践力を育成する同校の取り組みを伺った。

自ら積極的に行動する精神を 養う3年間

世界文化遺産である姫路城を校章のモチーフの一つとして戴く兵庫県立姫路商業高等学校。同校には、校訓ではなく、生徒の視点に立った「生活綱領」がある。

- 一、自分で考え自分で行う人となるう
- 一、創意工夫に生きる人となるう
- 一、共に喜び生きる人となるう

これらの規範が描くのは、積極的に考えて行動し、他者と共に成長する人物像だ。赴任して2年目となる吉田博昭校長は次のように話す。「この生活綱領は、昭和38年に定められたものです。現代の視点で見ても非常に新鮮で、まさに現在、そしてこれからの時代に合った内容といえるでしょう。本校に入学してくる生徒は真

面目でおとなしいです。だからこそ、集会などの機会の度にこの生活綱領を口にしていきます。言い続けることで、意識の変化は着実に進んでいます」。

この生活綱領に沿って、豊かな人間性と高い教養を備えた、次代を担う人材を育てるのが同校の大きな目標である。

生徒のうち、卒業後すぐに就職するのは3割程度。長年にわたり卒業生が確かな仕事ぶりを発揮してきたことだけでなく、会社を経営する卒業生も多いことから、求人は安定しているという。さらに、従来の即戦力育成を維持しながら、より高いレベルの職種や資格への挑戦、国立大学への進学にも対応できるように、長い職業人生を見据えたキャリア教育を行っている。生徒それぞれの目標に合わせて、授業だけでなく、生徒個別で、またグループでと全教員が協力して指導に当たるのが本校の特長だ。

同校の教育の中では、ビジネスマンとしてのマナー習得とコミュニケーション能力の育成も重視しており、日常的に、あいさつやお辞儀などの指導を徹底している。地元企業と連携した「商品開発」や、地元百貨店等での販売実習「チャレンジショップ」、地元小学校と連携した「パソコン教室」「親子プログラミング教室」など、学校外の活動も設けており、学校生活を通して学び身に付けた対人関係能力を発揮できるチャンスは多い。

「生徒はほとんどの時間を学校の中で過ごし、



学校の変遷を表す
歴代校章の碑



兵庫県立姫路商業高等学校

吉田博昭校長



中野卓哉教頭



都倉佳子先生

限られた人とししか関わることがありません。社会にはさまざまな立場の人がおり、積極的に人と触れ合ってコミュニケーションの方法を学ぶことは非常に重要です」と、吉田校長。

中野卓哉教頭も、学校外での活動について次のように話す。

「この夏に開催した親子プログラミング教室では、指導役はすべて生徒たちに任せました。生徒たちは、自分の頭で分かっていることを小学生にどう伝えればよいか、苦心していました。頭の中を整理できないと文字に書いたり話したりアウトプットするのは難しい。易しい言葉で説明したり、相手のペースを見るといった配慮が必要でした。様子を見てみると、生徒たちは短い時間の中でも伝え方や対応の仕方を徐々につかんでいくのが分かります。生徒主体の活動

ということではチャレンジシヨップでも同様で、自信がつくと声を出せるように

なったり、相手にありがとうと言われることが増え、余裕も出てくる。外部での活動での生徒の成長は目覚ましいものがあります」。

困ったことが起きたら、それに対応しなければならぬ。そのような経験をを通して、苦手だったけれど、知らない人と話ができるようになったという生徒もいる。「実践によって何ができないのかに気付き、それがさらなる学習につながる。これが一番の成果です」(吉田校長)。

秘書検定を通して 社会を疑似体験する

同校では、秘書検定も大いに活用している。指導に当たるのは商業科の都倉佳子先生。前任校で12年、転動してきてから9年、秘書検定の指導を担当するベテランだ。秘書検定導入の意義について、都倉先生は次のように話す。

「生徒たちは、卒業時点でもまだ18年程度の人生経験しかありません。ですから社会に出ることについては不安しかないので。秘書検定の問題を解くことで疑似体験ができ、DVDを見ることでこんなふうな仕事をするのだと理解できます。また、DVDを見て生徒たちが一番驚くのは体の動き、所作です。今の自分たちとは圧倒的に違うので、できるようになるのだろうかという不安も持つようですが、同時に本校に入ってあいさつや言葉遣いを厳しく指導されてきた意味にも気付くようです」。

毎年50名以上の生徒が秘書検定を受験してお



左から、商業科3年生の尾前智子さん、伊郷ゆうきさん、影山未来さん。秘書検定の受験を通して社会人に求められるマナーが理解できた、と自信あふれる笑顔

り、中には、自主的に勉強して1年時から挑戦する生徒もいる。

科目として取り入れているのは、2、3年生の「総合実践」と、3年生「課題研究」の選択講座の一つである「スキルアップ講座」だ。いずれも、目指すのは単なる資格取得ではなく、実践力の育成。特に、課題研究「スキルアップ講座」は、コミュニケーション能力の向上を目標に定めている。1学期は秘書検定3級・2級の内容が中心だが、座学でレクチャーを行うだけでなく、お辞儀や名刺交換、お茶出しなどはロールプレイングを取り入れ、選択肢について深く考えるグループディスカッションも取り入れる。「秘書検定で学ぶビジネスマナーや社会常識は人間関係の潤滑油であり、男女関係なく一生ついて回るもの。日本人の心構えの一つにおもてなしがありますが、お互いに気持ちよく仕事ができることはどのような職場でも大切です。大

最新事情 ④〇……兵庫県立姫路商業高等学校

地元百貨店のスペースを借りて行う「チャレンジショップ」は、年に2,3回、3日間開催(今年度は年末を予定)。店長、幹部、仕入れ担当や販売担当を決めて準備し、当日は役割を交代しながら窓口立って実際にお金と商品のやりとりをする。生徒たちは日頃の成果を生かし、企業や地域の人々と積極的にコミュニケーションをとっている



人でも立ち居振る舞いに迷うことがあります。高校生のうちにはぜひ、実践できるスキルとして身に付けてほしい(都倉先生)。

2学期は、ゲームを取り入れながらコミュニケーション・スキルについて学ぶ。例えばお絵描きゲーム。都倉先生の言葉に従って、生徒がそれぞれ絵を描くのだが、同じ言葉を聞いているはずなのに一人一人、まったく違う絵ができてしまう。さまざまなゲームを通して、生徒たちは、言葉で伝えることの難しさ、面白さを理解していく。どうすれば相手のことを大切にしたい対応ができるのか、自分の意見を出しつつ相手の意見を受け入れるにはどうすればよいのか。体験を通して学びながら、生徒は一步步大人に近づいていく。

誰かのために何かをする、その意識が大切

商業科3年生の伊郷ゆうきさん、尾前智子さん、影山未来さんに話を聞いた。

ドラマで見る秘書に憧れていたという伊郷さんは、2年生のときに3級に合格。「会社の場面は、自分がかっこいい秘書になったつもりで考えるとだんだん分かってきました。昨年、チャレンジショップで仕入れ担当として企業の方と接することがあったのですが、マニュアル通りにいかないことも多く、秘書検定の知識があつてとても役に立ちました。職員室にいられたお客さまに、急きょお茶を出すことになったのですが、うまくできてうれしかったです」。

尾前さんは地元企業で採用面接を担当している母親から、受けておくといいと勧められ、3年生になって2級に合格した。「一般常識を学ぶものだと思っていたので、仕事場面については、想像するのが難しかったです。特に上司が不在の時の対応は、社内にいる、ちょっとだけ外出している、出張に出ているなど、状況によって違うので苦手でしたが、都倉先生の解説を聞いて、臨機応変ということが少しずつ分かってきました(尾前さん)。

影山さんは中学生のころに同校のオープンハイスクールで秘書検定のことを知り、1年生の3学期に3級を受験、3年生になってから2級に合格した。「サポート役としての秘書は上司の指示なくしてはいけないこともあることから、今まで自分のしてきた



近隣の小学校と連携し、生徒たちが先生役になる「パソコン教室」も行っている(上)。今年度は、初の試みとして「親子プログラミング教室」を開催(下)

行動を振り返ることができ、自分で決めて行動してよいときと、指示を受けなければならぬときがあることがよく分かりました。来年就職しますが、しっかりと学んできたので、ほかの人よりもマナーや常識について知識を持っているという自信が付きました」。

三人に同校の特長を尋ねると、「先生方が、生徒が決めたことを実現できるようにサポートしてくれる」「先生からのあいさつも徹底しているから、自然とできるようになる」と話してくれた。「われわれの教育においては、利他」というのが重要なキーワードです。生徒が、自分のことだけを考えているのではまだ未完成。誰が自分を支えてくれるのか、自分が誰の役に立っているのか。それが分かれば感謝の気持ちも大きくなります。そういうことを意識できるようにしてほしいですね」と吉田校長は語る。できるはずだから、そこまで求める。生徒に対する期待は大きい。